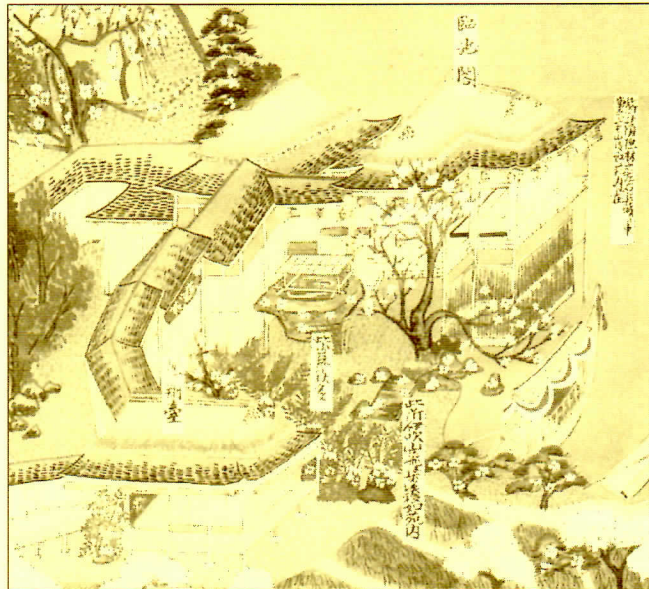


名勝 げん きゅう えん 玄宮園

玄宮園は、隣接する楽々園とともに江戸時代には「槻御殿」と呼ばれた彦根藩の下屋敷です。槻御殿は、延宝5年(1677)、4代井伊直眞により造営が始まり、同7年に完成したと伝え、昭和26年には国の名勝に指定されています。現在は、槻御殿の庭園部分を玄宮園、建物部分を楽々園と称しています。



臨池閣と鳳翔台

玄宮園の名は、中国の宮廷に付属した庭園を「玄宮」と言ったことから命名されたと考えられます。庭園を見渡す好所に建てられた数寄屋建築である「八景亭」の名から、一説に中国の瀟湘八景または近江八景

を取り入れて作庭されたとも伝えますが、江戸時代に描かれた「玄宮園図」に八景亭の名はなく「臨池閣」と呼んでいたようです。そのほか玄宮園図には「鳳翔台」「魚躍沼」「龍臥橋」「鶴鳴渚」「春風埒」「鑑月峯」「薩埵林」「飛梁溪」「涵虚亭」の十景が付箋によって示されており、当時「玄宮園十勝」と呼ばれていたことが確認されています。

玄宮園は、広大な池水を中心に池中の島や入江に架かる9つの橋などにより、変化に富んだ回遊式庭園となっています。池の水は、城下町の湧水の豊富な外堀からサイフォンの原理により導水して供給し、小島の岩間から水を落として滝に仕立てていました。池には



鶴鳴渚と魚躍沼

船小屋があり、園内で風流に舟遊びの一興を催すこともありました。また、松原内湖に面した庭園の北側には水門が開き、大洞の弁才天堂や菩提寺の清涼寺・龍潭寺への参詣あるいは松原のもう1つの下屋敷であるお浜御殿への御成りには、そこから御座船で出向いたようです。

彦根市教育委員会 文化財部 文化財課

TEL.0749-26-5833 FAX.0749-26-5899 e-mail:bunkazai@mx.hikone.ed.jp